

誕生日ケーキと聞けば、たっぷりの生クリームとイチゴのデコレーションを思い浮かべる。ろうそくを立てて祝う習慣は古代ギリシヤにさかのぼるらしいが、一般の日本人に広がったのは20世紀後半に入ってからだ。調べてみると、戦後の年齢に関する法律と洋菓子店の設備投資があのケーキの立役者だった。

フランス菓子店、ブルミッシュ(東京・中央)のオーナーで、スイーツの歴史に詳しい吉田菊次郎さんが1903年(明治36年)発行の小説「食道楽 秋の巻」を見せてくれた。天皇の誕生日「天長節」を祝うパーティーを描いた挿絵に、クリームでデコレーションしたケーキのようなものがある。


**戦前は数え年**

日本の上流階級にはすでに誕生日ケーキの文化が入っていたのかもしれない。しかし、吉田さんのコレクションのうち、食道楽と同じ年に発行された「一般向け」レシピ本「洋食のおけいこ」にはパンケーキやアップルパイが載っているものの、クリームでデコレーションしたケーキはない。そもそも当時の庶民の間

# 誕生日ケーキ、いつ日本に

## 年齢法と冷蔵ケースが立役者

### 誕生日ケーキの歴史

古代ギリシャ	月の女神アルテミスの誕生日にケーキにろうそくを立てる儀式	
中近世ドイツ	子どもの祭り「キンダーフェスト」でケーキを食べる習慣	
日本では…	明治時代の小説「食道楽 秋の巻」の天長節パーティーの挿絵に誕生日ケーキらしきもの(1903年)	
	「年齢のとなえ方に関する法律」が施行され、数え年で生活していた一般国民が満年齢の誕生日を意識(50年)	
	洋菓子店に冷蔵ショーケースが普及。生クリームのケーキを扱うように(55年ごろ)	



生クリームとイチゴを載せた定番の誕生日ケーキ(ブルミッシュ銀座本店)

では誕生日ケーキどころか、誕生日という考え自体が薄かったようだ。生まれた日に1歳、その後はみんなが元日に一斉に年をとる「数え年」が一般的だったからだ。

現代民俗学を研究する関西学院大学の島村恭則教授は「初誕生(満年齢の1歳)以外は、ほとんど誕生日を意識しておらず、何の行事

でもないケーキも多かった」と解説する。

昭和の戦時下で食料が配給制になり、小麦粉や砂糖を使うケーキ文化はいったん廃れた。戦後になって誕生日ケーキが急速に広がったのはなぜか。

まず50年に「年齢のとなえ方に関する法律」が施行され、日常生活での年齢の数え方が満年齢に統一され

る。これで個人の誕生日の意識が強まった。翌51年のレシピ本「お菓子のスタイルブック」の表紙は誕生日ケーキだ。チョコレートでコーティングしてホイップクリームで「HAPPY BIRTHDAY」の文字を書いている。

このケーキはリング状で、その中心に置いたリングにろうそくも立ててあ



昭和30年代、冷蔵ショーケースに「デコレーションケーキ」=コロンバン提供

る。「果実などに穴をあけて立てた方がみた感じもよいものです」との説明があり、誕生日ケーキにろうそくを立てる習慣が根付いてきたことがうかがえる。

もっとも、当時小学生だった吉田さんの記憶によると、こうした誕生日ケーキは「レシピ本に載っていないも、お店では売っていないかった」という。

傷みやすい生クリームを使ったケーキが広く売られるようになったのは、高度成長期に入ってからだ。電気冷蔵庫が家庭の「三種の神器」のひとつとして本格普及し、誕生日やクリスマス

のケーキを売ろうと洋菓子店が冷蔵ショーケースを導入していった。

老舗の洋菓子店、コロンバン(東京・中央)では、戦後すぐにはバタークリムのケーキを扱っており、「昭和30年以降は生クリームのデコレーションケーキの人氣が高まった」。近江屋洋菓子店(東京・千代田)

にも聞いてみると、「昭和30年には誕生日ケーキを販売していた」という。

日本の誕生日ケーキは高度成長期の入り口で完成したわけだが、歴史をさかのぼると、その習慣のルーツは古代ギリシャにあった。

**月の女神の儀式**

定説は「月の女神アルテミスの誕生日を祝う儀式で、ケーキにろうそくを立てて供えていた」(フードジャーナリストの並木麻輝子さん)というもの。その明かりを月光に見立てていたのかもしれない。

人間の誕生日ケーキは古代ローマに記録がある。東京都市大学の新保良明教授によると、「古代ローマ人は盛大に誕生日を祝っており、その様子を記した史料には、当時でいうケーキのようなものも、しばしば登場する」という。

時代が下り、中近世ドイツの子どもの祭り「キンダーフェスト」では悪魔から子どもを守るためケーキを囲んで人が集まった。これが欧米の誕生日パーティーにつながったようだ。

そして現代日本。SNS(交流サイト)で「#本人不在の誕生日会」と検索すると、約19万もの投稿がヒットする。アイドル、アニメのキャラクターなどお気に入りの「推し」の誕生日をお祝いしているのだ。アイドルグループの場合、メンバーのイメージカラーのケーキを注文したりする。

古代ギリシャの月の女神に始まり、中近世の欧州、米国のめぐって日本に上陸した誕生日ケーキは、時代の文化と融合しながら進化していく。(臼井優衣)